

富山湾で捕獲されたオンデンザメの初記録

伊串祐紀・稲村 修（魚津水族館）

Pacific sleeper shark, *Somniosus pacificus*,

First record in Toyama Bay, Japan

Yuki IGUSHI Osamu INAMURA

Uozu Aquarium

はじめに

オンデンザメ *Somniosus pacificus* はツノザメ目オンデンザメ科オンデンザメ属に分類され、全長 7 m に達する深海性の大型種である（波戸岡ら, 2013）。田中（2009）は、アラスカ湾北部での移動・行動の調査から、オンデンザメは索餌のために鉛直移動をしており、生息水深は主に水深 100～550m で、生息水温は水温 5.5～8.2℃ の範囲と報告している。

分布は、サハリン両岸・オホーツク海・チュクチ海、ベーリング海～カリフォルニア南部の太平洋沿岸とされ、日本では北海道の全沿岸域や津軽海峡から駿河湾までの太平洋岸や土佐湾などで記録がある（波戸岡ら, 2013）。しかし、日本海においては、秋田県で 3 例が報告されているのみである（秋田県, 2007）。

今回、富山湾においてオンデンザメが初めて捕獲され、解剖の結果、新たな知見が得られたので報告する。

材料と方法

捕獲された個体は、2013 年 4 月 27 日に富山湾内で底刺網によって捕獲され、魚津漁業協同組合の市場へ水揚げされた。水揚げ時には生きており、魚津水族館で飼育を試みたが、2013 年 5 月 2 日に死亡した。死

亡後、計測及び解剖を行った。また、捕獲後に吐き戻した餌や、死亡後に胃内容物を調べた。

捕獲情報を以下に記す。

捕獲日時：2013 年 4 月 27 日

捕獲場所：魚津市青島沖 水深 450m

捕獲方法：底刺網

捕獲者：山崎栄一（仁光丸）

結果

1. 同定

日本国内では 6 種のオンデンザメ科魚類が確認されているが、①背鰭前縁に棘がない、②第一背鰭と第二背鰭はほぼ同じ大きさである、③下顎歯の尖頭は短く著しく後方に向く、④尾鰭基部に水平隆起がないといった特徴が波戸岡ら（2013）と一致したことからオンデンザメと同定した。

2. 計測記録

性別：メス 体重：45 kg

全長：152cm 吻長：12cm

体高：33cm 尾柄高：10cm

両眼間隔：20cm

胸鰭長：19cm 腹鰭長：12.5cm

第一背鰭長：6 cm 第一背鰭高：4 cm

第二背鰭長：6 cm 第二背鰭高：3 cm

尾柄幅：7 cm 噴水孔径：1.7 cm
尾鰭上葉長：25 cm 尾鰭下葉長：21.5 cm
内臓重量
肝臓：4.1 kg 胃：1.5 kg
腸：0.8 kg 心臓：50 g
生殖腺：50 g
胃内容物：スルメイカ(外套長 26 cm, 15 cm),
サバ 250 g (種不明). その他
に、ミズダコの腕 6 本を吐き
出す。

考察

今回のオンデンザメは、富山湾沿岸の水
深 450 m で、生きたまま捕獲された。富山
湾の水深 300 m 以深には、年間を通じて水
温 1.5°C 以下の日本海固有水が存在してお
り(内山, 1998), オンデンザメは 1.5°C 以
下の低温でも生息できることが明らかにな
った。

日本海での記録や確認情報について、加
茂水族館(山形県)・上越水族館(新潟県)・
のとじま臨海公園水族園(石川県)に確認
したところ、それぞれの県では未確認であ
った。富山県内の漁業者に聞き取り調査を
行ったが確認できず、日本海や富山湾にお
いて非常に稀な生物と言える。つまり、富
山湾には迷入してきたと考えられた。その
移動経路については、オンデンザメは主に
太平洋岸の深海や北日本沿岸に分布してい
ることや、日本海では秋田県のみで確認さ
れていることから、日本海を南下して富山
湾の深海にきたと推測された。

オンデンザメの餌については、胃内容物
のスルメイカ・サバ・ミズダコはすべて未
消化であったことから、本種は富山湾内で
摂餌していたと考えられる。餌生物である

スルメイカは表層性で、昼間は水深 100 m
層におり、夜間は表層近くまで浮上し、生
息最適水温は 15°C 前後とされ、マサバも表
層性で、昼間は水深 70~150 m 層に多く、
夜間は表層に浮上する(真木ほか, 1997)。
一方、ミズダコは、水深 200 m 以浅に生息
し、産卵期の春から夏には浅場に移動する
(真木ほか, 1997) とされ、この時期の富
山湾では海岸付近でも見られる。今回本個
体が捕獲された 4 月の富山湾では、いずれ
の種も沿岸の定置網などで捕獲される。胃
内容物から深海生物が発見されなかったこ
とからも、本個体は摂餌のために深海域と
表層域を鉛直移動していることが示唆され
る。なお、本種の鉛直移動については田中
(2009) でも報告されている。

今回、富山湾の深海域において本種が捕
獲され、さらに胃内容物が確認できたこと
は大変貴重な記録である。なお、筋肉と内
臓の一部をサンプルとして保管している。

謝辞

捕獲の連絡をいただいた濱多一徳氏(魚
津漁業協同組合)と、個体を寄付いただい
た山崎栄一氏(仁光丸)に厚く御礼申し上げ
る。

引用文献

- 波戸岡清峰, 柳下直己, 山口敦子. 2013.
オンデンザメ科 解説, 中坊徹次編. 日
本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東
海大学出版会. 186.
真木長彰, 寺島裕晃, 中村啓美. 1997. 第 2
部第 1 章, 阿部宗明, 本間昭郎監修. 現
代おさかな事典 漁場から食卓まで. 株
式会社エヌ・ティー・エス. 364, 826,

846.

田中 彰, 矢野和成, 市原忠義. 1982. 駿河湾で漁獲されたオンデンザメ *Somniosus pacificus* について. 東海大学紀要海洋学部第 15 号. 東海大学海洋学部. pp345-358.

田中 彰. 2009. オンデンザメってどんなサメ?. 海のはくぶつかん 2009 年 9 月秋号. 東海大学海洋科学博物館. pp 4-6.

内山 勇. 1998. 富山湾の海況 解説, 富山県水産試験場. 富山湾の魚たちは今. 桂書房. pp 5-7.

引用 WEB

秋田県公式 Web サイト美の国あきたネット,
<http://www.pref.akita.lg.jp/www/contents/1360722223185/index.html>



魚津水族館に搬入②



吐き出したミズダコの腕



水揚げされたオンデンザメ



魚津水族館に搬入①